

# コンビナートの複合的災害に対策バラバラ

## 佐々木議員に総務大臣が総合対策などの必要を認める

佐々木憲昭衆院議員は5日、予算委員会第2分科会で、石油コンビナートの防災対策の抜本的強化を求めました。

佐々木氏は、東日本大震災で千葉県市原市の液化石油ガスのタンクが次々に爆発・炎上した事故にふれ、コンビナート災害は連鎖的・複合的な危険性があるが、現状は石油、ガス、毒物、放射性物質などの所管省庁がバラバラで、消防局も「初期対応に苦慮した」と報告していることを指摘しました。これに対し、川端総務相は「問題があるという指摘はある」と認めました。

災計画の策定が事業者任せになっていると指摘し、「国が前面に出て総合的な対策を早くつくるべきではないか」とただしました。川端大臣はこれにも「大きな検討事項だ」と答えました。

### 液化化被害に通報義務化を

また、佐々木氏は、名古屋港では東海・東南海2連動地震による液化化で、



東海・東南海2連動地震による液化化で、

# 原発再稼働の根拠崩れる

## 井上議員への枝野、斑目氏の答弁で



井上さとし参院議員は9日、決算委員会で、原発の再稼働

問題をとりあげました。

井上氏はまず、政府が電力会社の主張をうのみにし、津波対策さえ講じれば、原発の再稼働を認めようとしていることをあげ、「福島第1原発で」地震による原子炉や配管の損傷がなかったと断言できるのか」とただしました。これに対し、枝野経産相は、「基本的な安全機能が損なわれた可能性を示す情報はない」と、断言できる根拠のないことをうかがわせました。

野田首相は、「一定の知見が中間報告で出ている。ストレステスト、原子力安全・保安院と原子力安全委員会がダブルチェックした上で、地元の理解を得ているかふまえて政治判断をする」と答弁、これに対し、

井上氏は「一定の知見だけではだめだ。徹底した事故究明もなしに見切り発車は許されない」と強調。そして保安院が、ストレステストを1次と2次に分け、1次評価によって再稼働を判断するとしていることをただすと、班目(まだらめ)安全委員長は、「総合的安全評価としては不十分で、2次評価までやっていただきたい」と答弁しました。

井上氏はまた、保安院が福井県の大飯原発3・4号機の1次評価結果を「妥当」としたことについて、「若

狭湾岸は断層の巣といわれ、大飯原発付近の断層連動の可能性が調査されている。調査中に『妥当』と結論を出すのは『再稼働先にある』ではないか」と追及しました。枝野大臣は『妥当』は手順のことであり、ストレステストをやっただけで安全性が確認されるものではない」と答弁し、再稼働に根拠のないことを認める結果になりました。

さらに、井上氏が原発事故対策について、「地域防災計画はいつ改定されるのか」と質問すると、細野原発事故担当相は「新しく法制度を足させ、6カ月ほどかけて新指針をふまえた防災計画をつくっていた」と答えました。

井上氏は「原因究明も、安全確認も、事故後の対策もまだこれからで、再稼働はやめるべきだ」と主張しました。これに対し、野田首相は「厳しくチェックすると思う」などと無責任に答え、再稼働に向け「政治判断する」と居直りました。